発行日:2022/06/10

そろっと英米語学科新聞やき

Contents

留学＆グルメ

NY のベーグルにくびったけ

・・・01

就活体験速報

見栄は張らない、自分らしい、必要最低限な就活のススメ・・・02

働くのは私、とりあえず祝え

・・・03

在校生インタビュー

イギリス以外の留学はあり得ない―わたしのこだわり

・・・04

僕とゲームと英語・・・05

Vol.1

英米語学科４年塩崎ゼミ

～留学＆グルメ～

NY のベーグルにくびったけ

健康的な上に美味しいという事で最近日本でも注目されるようになったベーグル！今回は NY に７年在住、４年間朝と昼にベーグルを食べ続けた塩崎先生に熱く語って頂きました。（小林和果奈）

（写真：左 Sesame、右 Everything）

■普通のパンと何が違うの？

塩崎先生いわく、ベーグルはパンではないそうです。確かに、一般的なパンとベーグルにはその製法に大きな違いがあります。なんと、生地を発酵させたあとにお湯で茹でるのです！こうすることで生地が膨らみにくくなり、ベーグル特有の外側が固く、中がモチモチの食感になります♪また、パンを作るときに必要なバター、卵、牛乳などが基本的には使われていません。ベーグルは非常にシンプルな食材でできていることが分かりますね。

■まずは基本から！

ベーグル初心者だったらまずは基本のフレーバーから味わってみてください。Plain（プレーン），Salt（塩），Sesame（セサミ），Whole Wheat（全粒粉），Everything（塩、ゴマ、穀物などが付いたもの），Cinnamon Raisin（シナモンレーズン）などが定番です。ちなみに、塩崎先生イチオシは Cinnamon Raisin のベーグルに“バター”と合わせて食べる事！ベーグル特有の甘味とバターの塩味がとても合うそうです。価格も 2 ドル（日本円で約 250 円）ぐらいなのでリーズナブルです。

■発祥はどこ？

最初は東欧の一部の人たちの間で食べられていたようですが、ユダヤ人が NY に移り住むようになりベーグルも定着していきました。当時は日曜の朝に食べる事が一般的だったようです。また、ベーグル特有の「茹でる」工程はユダヤ人が焼いたパンを作ることを禁止されていたため生まれた工程だそうです。

■おすすめのお店

NY での塩崎先生おすすめのお店は Ess-a-Bagel（エッサベーグル）です。NY でも人気で地元の人からも愛されているお店です。メニューの中にある A Signature Favorite（シグネチャー・フェイバリット）はベーグルの間にサーモン、クリームチーズなどがサンドされていてボリュームたっぷりです。値段は日本円で約 1,500 円と少しお高めですが、NY に行ったらぜひ食べてみてください！！

■塩崎先生から一言

現地の本場物を日本に持ち帰って食べると期待外れに終わることが多い。ということで、本場 NY で、毎朝、種類を変えて食べてみてほしい。

（写真：NY イメージ）

―就活体験速報―

見栄は張らない、自分らしい、必要最低限な就活のススメ

英語のクラスは常にトップ・成績も優秀。しかし周りにはエリート感を少しも見せない英米語学科４年生の伊東輝（いとうひかる）さん。そんな彼の就活は、全力を注がず、適度に力を抜いた、まさに必要最低限な就活だったという。

■伊東君の就活状況

３年生７月

学校経由でインターンに応募

夏休みにマイナビで３日間研修を行う

３年生８月～12 月

夏のインターンが終わり、一時休憩

趣味である、サッカーチーム「ベガルタ仙台」の応援遠征や大学の課題に勤しむ

３年生１月～４年生４月下旬

１月の後半から１day インターン参加を再開し、商社とＩＴ企業を中心に選考を受ける

その後、第一志望の一部上場ＩＴコンサルタント企業で面接を２回行い、その後内々定を頂き、就活を終える

■就活なんてやりたくない

伊東さんはサッカーの試合観戦が趣味で、頻繁に遠征していて、就活には全く力が入らなかったようだ。

「そもそも僕の将来の理想は、安定した家庭を築くことなので、どういう仕事に就きたいというのはありませんでした。ただ最低限、土日が休みで自分の時間がきちんと取れていて趣味に時間を使うことができれば問題ないです。就活はやらなきゃいけないからやっていました。」

■自分なりの就活の進め方で

志望業界は特に定めず、説明会で業務内容に興味を持った会社にエントリーするようにして、就活を進めていったそうだ。来春から勤める企業は、企業の持つＩＴ技術で他の企業をサポートしており、海外支社もあるという。

「今まで自分がやったことないもの・アルバイトでは経験できないことに興味がありました。また、サッカー関連の知り合いがＩＴ企業に多く勤めていたので何となくＩＴ企業も見ていました。業界ではなく会社単位で、消去法で決めていきました。そのため、業界研究をせずに最終面接を受けて焦ったこともありました。」

■我が道を行く、伊東輝

人間の長い人生の中で就活なんて一部分にすぎないと語る伊東さん。これまでの人生も、自分のやりたいことや興味あることを選択し、常に「なんとかなる！」と自らを奮い立たせてきた。そんな彼を両親や周りの友人は応援してくれていたそうだ。

「就活で先の人生が決まるわけではありません。自分に見合ったラインでいいと思います。見栄を張らずに生きていきたいです。僕は非常に運が良かったですね。」

■４年ゼミ担当塩崎智教授から一言

英米語学科には、MARCH にいてもおかしくない、頭の回転が速い＝理解力が高い学生が結構いる。伊東さんもその一人で、「欲が無い、汗水垂らして頑張るのが嫌い、でも自分で納得のいく結果は出す」タイプの学生だ。頭でっかちではなく謙虚なところも得していると思う。仕事を任せてみたくなるタイプではないか。

英米語学科４年伊東輝さん

―就活体験速報―

働くのは私、とりあえず祝って（怒）

英米語学科４年生の川上莉穂さんはこの春小売業界の有名企業から内定を獲得した。満足のいく形で就職活動を終わらせた川上さんだが、周囲の心ない大人たちの反応からその結果を喜びきれなかったという。それでも希望していた仕事だけに意志は固い。どのような道のりで内定を獲得し、今に至ったのか話を聞いた。

〇３年夏―就活始めた感

就活を始めるにあたってまずマイナビ・リクナビなどの就活サイトへの登録を行った。

「今やらなければこの先ずっとやらないと思い、３年生の５月後半に就活サイトを通じて、選考なしの夏のインターンシップに応募しました。予定を埋めることで就活始めた感を出していましたし、自分の興味を探る自己分析のきっかけにしようと考えていました。」

応募した企業のうち、家電業界企業のインターンシップが早期選考に繋がった。

〇３年冬―自分と向き合う

家電業界企業の選考は最終面接まで進み、１月初旬には内々定を獲得した。しかし当初就活の練習として受けており、業務内容には興味がなかったため辞退した。

「アルバイトで接客をしていたことから、受け答えはスムーズにできました。面接練習はできたので冬休み前半は本選考に向けてＥＳやエントリーシートを固める方針で動いていました。」

自分と向き合った冬休み前半を経て、仕事に対する興味関心がはっきりとしてきた。

「最終的には業務内容で興味が分かれました。営業や事務系の職種は法人相手の職種であまり惹かれませんでした。一方で魅力を感じたものはお客様と直接関われる職種です。アルバイトでも接客をしていたため、適正があるかないかもわかっています。そこで小売業界に興味を持ちました。」

〇３年冬―意思決定

小売業界への意志を固めた川上さんは、１月にアルバイト先の小売業界企業へＥＳを提出した。

「一次選考では志望動機などの基本的なことをＥＳに書きました。それが２月の二次選考に繋がり、グループディスカッションと社員面接を行いました。結果的にその企業からは内定をいただき、志望していた小売業界で働けることが決定しました。」

〇４年春―悔しさと覚悟

しかし周囲の反応から結果をどうしても喜びきれなかった。

「家族からは大卒でレジ打ちするのかと言われ、ゼミの塩崎先生からはバイトと同じとも言われました。小売業への偏見からほとんどの大人に祝ってもらえずにしんどかったです。とりあえず祝えと思っていました。」

志望業界に内定したにも関わらず、悔しい思いをした。しかし現在は前を向いている。

「意志が揺らぐこともありました。しかしこれがやりたい職種でしたし、結局働くのは自分です。覚悟を持ってここで働いていきたいと考えています。」

イギリス以外の留学はあり得ない
―わたしのこだわり

英米語学科３年川本爽乃（さやの）さんは今回の長期研修先であるアメリカ留学をキャンセルした。理由は、イギリスへのこだわりと愛着にある。彼女の熱い思いを記事という形で発信したいと思った。（中村　塁）

―なぜ川本さんはイギリスにしか留学に行きたいと思わないのですか？

実は「これで私はイギリス好きになりました」といった明確なターニングポイントはありません。

しかし、歳を重ねるごとに私の生活はイギリス関連の映画、趣味にあふれていて、「イギリスに運命的なものを感じている」というのが留学先に選んでいる本音の部分です。

―イギリスに行って学びたいこと、やりたいことはなんですか？

TOEIC をはじめとした英語学習はもちろんのことですが、私はイギリスの発音(British accent)に惹かれていて習得したいと思っています。

また、イギリスと日本は島国同士で、礼儀正しさや、女王と天皇がいるという点で似ているところが多いのですが、イギリスは多民族国家という点が日本と異なります。この違いを生活レベルで体感したいと思っています。

―コロナ禍、危険な国際情勢においての留学の不安はありますか？

正直、好奇心と不安がせめぎ合っています。

コロナ情勢の中でも、留学者は増えています。しかしそのタイミングで、ロシアのウクライナ侵攻が始まり懸念点が増えてしまいました。不安はたくさん残っています。

―その中で留学にこの時期を選ぶことはどのような理由からですか？

私は 2020 年度入学の 1 年生の時からオンライン授業で、俗に言う華のキャンパスライフというものを送ることが出来ず、とうとうここまで来てしまいました。

学生である期限に猶予はなく、今の学年のうちに留学をするか否かの判断を下さなければなりません。私が最も成し遂げたかった海外留学というものをする最後のチャンスが今しかないからです。

―留学を通して得られるものは何があると思いますか？またそれを帰国後にどのように活かしますか？

留学で得られる一番の力は、対話することへの忍耐力だと思っています。私が高校の時に興味を持った論文には、人との対話の複雑さに耐える重要性が説かれていました。

国内でも感じてしまう対話の大変さにプラスして、英語を必然的に話さなきゃいけないという環境は、自分の語学力を伸ばす絶好の機会であり、耐え抜けば最高の武器が手に入ります。

そのような経験を活かし、小さいころから夢に見ていた貿易関連の仕事に就き、国内やあわよくばイギリスへ赴任して、イギリス英語漬けの世界に浸りたいと思います。

英米 3 年川本爽乃さん

僕とゲームと英語

英米語学科にいた!! 大好きなゲームのためなら苦手な英語も勉強しちゃう男、英米語学科α年生中村塁（るい）さん。英語とゲームに繋がりがあったとは思いもしなかった。ゲームを通して英語を学ぶとはどういう事か話を聞いた。　（宮内　萠望）

■僕を知ってください！

中学生の頃に、世界的に有名な銃撃戦のゲーム『ＦＰＳ』を始めました。高校生になってからも続け、今でもしています。ゲームが大好きすぎて学業を疎かにしてしまったせいで、テストや模試では１割しか英語の点数が取れずにいました。

そのせいで補習になった時には、早退しようとして先生にブチ切れられたなんて事もありましたね(苦笑) 。ゲームに熱を捧げまくったおかげで、高校２年生の時にセミプロになり、大学に入る頃に本格的にプロを目指し始めました。これが僕です。

■マジ無理な英語と向きあうきっかけは？

きっかけは、高校１年生の冬に学校で行った２週間のカナダ留学をした時でした。二人一組でステイ先に泊まる事になっていたんですけど、僕とペアになった友達がこれまた僕以上に英語が壊滅的で (笑)。だからどうしても僕がステイ先の人と会話しないといけませんでした。

授業も全く理解できないし気分は下がってたんですけど、ホームステイ先に居た同年代の子とのゲームの話だけは盛り上がるくらい話が通じたんです。それが嬉しかったし楽しいと思いました。それで、僕の好きな事で言葉が違っても話しができるんだと知りました。この事がきっかけで帰国後に、英語と向き合い始めました。

■えっ！？プロじゃなくて大学！？

僕はそもそも、お金を稼ぎたいと思っていたんです。正直、高校生でもプロを目指す事は可能でした。でも、海外のプロゲーマーのサイトを見ていると、プロゲーマーになっても一生分のお金を稼げない事を知ったんです。だからといって高校卒業してもやりたい事はありませんでした。

でも、ゲームを通して、海外プロの人たちとのやりとりのおかげで、リスニングの能力は上がっていました。そこから僕は、もっと海外の人たちとのやりとりに支障がないくらい英語を勉強したいと思い大学に進学しようと決めました。

■今の僕を知ってください！

大学 1､2 年生の時に新しいゲームがでてのめり込みました。そのせいで勉学を疎かにしてしまったので人より多く大学に在籍しています。今は気持ちを改めて、英語の勉強に励んでいます。

大学には色んな国籍の人がいて、中でも僕は中国人の子と友達になりました。やっぱりゲームの話しは通じるし、一緒に遊びに出かけて、ゲーム用パソコンのパーツを買いに行った事もあります。残り２年、惜しみなく英語学習に没頭したいと思っています（笑)。

■迷ってる君へ

迷ったら､自分の軸を曲げる事がないくらい『好きか』という事を判断して欲しいです。

趣味を仕事にしたいと言っても誰もができるわけではありません。その時に考えることは、その事に人生をかけてまで熱中できる事かどうか。それを自分の中で見極めないといけないと思います。だから、僕は長い学生生活を通して自分の趣味に対して考えることができました。

僕は将来、海外に拠点が多いゲーミングデバイスを開発する会社から、日本にその製品を輸入する仕事に就くという夢ができました。やっぱり、僕はゲームとは離れられないです！

左:愛用中のマウスとマウスパッドでゲームをする、中村塁さん。

編集後記

今年のゼミは史上最年少の人数で活動している。対面でできるようになり、なかなか和気あいあいでいい雰囲気で進んでいて何よりだ。まずは１号の完成を祝いたい。（汐崎　悟史）

お読みいただきありがとうございます。執筆期間中はベーグル巡りをしていましたがインタビューで聞いたような一品には出会えませんでした。悔しいです…。ですが、この記事を通して皆さんにベーグルの魅力が少しでも伝わっていたら嬉しいです！（小林 和果奈）

就活も終わり暇人大学生と化した川上です。６月に入り、24 卒の就活も始まったところでしょうか…。ついつい周りと比べてしまったりあらゆる情報に惑わされがちですが、よそはよそ、うちはうちですよ。自分を強く持って頑張ってくださいね！（川上 莉穂）

就職活動も一筋縄ではいかないですね。忙しい中で色んな選択を迫られます。しかしもっと忙しいのは終わってから。大学生として残された貴重な時間を精一杯堪能するため、僕はせかせかと全国のスタジアムに毎週出かけている最中です。（伊東 輝）

このような留学への強い気持ちを持った川本さんに、インタビューをさせていただけたことにとても感謝しております。留学へ行きたい方の指標となるような記事にするように精一杯努力しました。川本さんの留学が素敵なものになるように心から応援したいなと思いました。
（中村 塁）

誰もが、嫌いなものは遠ざけたくなりますよね。まさか、中村塁くんに好きな事をしていたら英語ができるようになるなんて思いもしなかったです。皆さんも、好きを曲げないような判断をしてくださいね。
（宮内 萠望）